

乳酸発酵させたお米を、牛が好んで食べると、高品質の牛肉になる。
牛の飼料は輸入穀物に依存しており、近年、高値傾向が続いている。このため国産飼料

未来を開く

青森産技センター報告

— 7 —

として「飼料用米」を安価で安定的に入手できれば、経済面などで畜産農家のメリットが大きい。飼料用米を家畜に与える場合、収穫したままの

牛飼料に粃米使用

発育順調、肉質も良く

3割代替でコスト4%減

粃米で与えるのが手軽だが、保存性を高めるには乾燥させる必要がある。乾燥にはコストがかかる。

トがかかる。

そこで、畜産研究所では、粃米を乾燥させずに「粃米サイレージ」という飼料をつくり、黒毛和種の肥育牛に与える技術を開発した。県内で生産された飼料用米専用品種「みなゆたか」を使った。これは、農林総合研究所が開発した品種で、寒さに強く収量が多いのが特徴だ。

粃米サイレージは、生の粃米を破碎し、乳酸菌と水分を添加した後、脱気・密閉するという方法でつくる。この方法だと約2カ月後に乳酸発酵が進み、牛に与えることがで

きる。甘い香りがして、牛の食いつきが良く、発育も順調である。

黒毛和種の肥育牛に生後10カ月齢から与え始め、食肉とする30カ月齢までの期間続けて与える。与える飼料は、通常の配合飼

料量の3割を粃米サイレージで代替。粃米の割合が高すぎると肉質が低下するケースがあったため、3割とした。

粃米サイレージは通常の配合飼料と比較してタンパク質が少なく、これを補うために大豆かすなど高タンパク質飼料の追加が必要である。

生産した牛肉は、肉質に優れた最高ランクのA5等級だった。また、配合飼料給与量の3割を代替した場合の飼料コストは、通常に比べて1頭当たり約1万4千円（4・2%）削減された。

当研究所では、粃米の破碎機の貸与や調製技術の指導などで、粃米サイレージの生産と給与に挑戦する肉牛生産者を支援している。近い将来、皆さまの食卓にお米を食べた牛肉が並ぶことになるでしょう。（期待ください）

（畜産研究所繁殖技術肉牛部 河合紗織）



粃米サイレージで肥育までの流れ

東奥日報 平成28年5月27日掲載

この記事は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。